

## (6) ケース回答からの家庭生活ストーリー

今回のアンケートは、学年によらず子どもさん一人一人の生活がうかがえるような工夫になっています。そのことから、ご家庭の悩みの一例をストーリーとして紹介します。(ただし、一部回答を割愛しながら組み立てています)

### 例) 経済的ゆとり感がなく、教育の負担を感じているシングルマザーのケース

お子さん2人と5人家族で暮らすひとり親のAさん。収入が少なく経済的な支援を受けています。暮らしぶりは非常に苦しく、学用品や学校の行事にかかる費用が負担と感じています。近所づきあいはある方で、子どもといっしょに地域の行事には出かけることもあります。しかし、この1年間は家族で旅行するということはありませんでした。学習机もなく、子どもにとって不足するものがあると感じています。学校にもしっかり行けていて、家の手伝いも30分ぐらいしてくれます。子どもさんには短大ぐらいまでは進学してもらいたいと考えていますが、お子さんの学習意欲に心配があるようです。そんなAさんは、子どもの教育費のこと、仕事をしたいと思っているができない状態にあること、自分自身の健康面に悩みがあります。そして、子どもの一時あずかりのサービスや子どものみで無料もしくは安価で食事ができる場所、無償もしくは低料金の学習支援が希望の支援です。

### 例) 多子家族で、母親が仕事の両立を望んでいるケース

4人以上のお子さんと大家族で暮らすBさん。夫婦共稼ぎで生活保護等を受給はしていません。就学援助を活用していますが、学校の行事費や部活にかかる費用が負担に感じています。生活が非常に苦しいと感じています。子どもたちの将来の備えも十分にしていません。大家族でも食事は朝夕と家族全員そろってとっていますし、家族との会話も多い方です。子どもたちと一緒にしたことは、誕生日のお祝いをしたぐらいにとどまりました。子どもには本・参考書、学用品が不足していると思っています。子どもは大学まで行かしてやりたいと思っていますが、将来の教育費が心配です。そんなBさんは、仕事と子育ての両立が難しいと感じています。そして、無償もしくは低料金の学習支援、子ども医療制度の充実を望んでいます。

### 例) 子どもさんに障がいのある家庭のケース

ご家族に障がいのあるお子さんがいらっしゃるCさん。ゆとり感はやや苦しいと感じていて、就学援助を活用しています。障がいのあるお子さんの栄養面が心配だと言います。家族ではいっしょに出かけたりしています。ただ、学校でトラブルがないか心配です。学校が終わるとスマホ・ゲームの時間が多く、あまり部屋からでてきません。室内遊び場、学童クラブは利用しています。そんなCさんは、子育ての自信に不安があります。そして、子どもの進路や就労について相談できるところ、学習支援を受けられるところが近所になく、困りごとに対応できる人を望んでいます。